

# 共生・協働の 地域社会づくり

NPO法人子ども医療ネットワーク  
TEL 099(275)5354

## 未来を担う全ての子どもたちに 適切な医療支援を

NPO法人子ども医療ネットワークは、「全ての子どもたちに適切な小児医療と快適な闘病生活を」を目的として、平成17年5月に設立。離島やへき地など小児科専門医が少ない地域等に住んでいる子どもたちを対象に医療支援活動を行っています。

「病気を抱える子どもたちや看護する家族、そして、家に残る家族の精神的・肉体的疲労や経済的な負担は計り知れないものがあります」と語るのは、医師で、鹿児島大学大学院教授（小児科学）の河野嘉文<sup>かわのよしふみ</sup>理事長。

現在30人近くの子どもたちを対象に、旅費や宿泊費の一部を支援。平成19年7月には、通院・入院する子どもとその家族の宿泊施設として「鹿児島ファミリーハウス」を開設し、「がんの子どもを守る会」鹿児島支部の協力のもとに運営しています。

「鹿児島ファミリーハウス」は、鹿児島市鴨池2丁目のビル内に3室あり、人数にかかわらず治療中の子どもやその家族が一泊千円で利用可能。子どもの受診が多い夏休み期間中はほぼ満室

で、県外からも多くの利用者が訪れています。同施設には、家電製品や寝具のほか、入院中



長期入院中の子どもの家族などが滞在できる鹿児島ファミリーハウス

の子どもが一時外泊する際、保護者の手料理が食べられるように調理器具や食器も備えてあり、保護者だけでなく子どもの精神的なリフレッシュや家族のだんらんの場として心強い存在となっています。

また、子ども医療ネットワーク会員の医師らがボランティアとして離島などに出向き、小児医療についての正しい知識の普及・啓発を行う「子ども健康相談会」を継続して実施しています。保護者に「応援団がいる」という安心感を与えようと、地域の医療関係者とのつながりができたと、連携も取りやすくなっています。今年3月に与論町で開催するなど、今後もこの相談会を実施していく予定です。

平成22年10月には、NPO法人の中でも広く一般から支持を受けているなど一定の要件を満たしているとして、国税庁長官から「認定NPO法人」にも認定されました。現在、南日本新聞に「あんしん救急箱」を連載し、育児

の子どもが一時外泊する際、保護者の手料理が食べられるように調理器具や食器も備えてあり、保護者だけでなく子どもの精神的なリフレッシュや家族のだんらんの場として心強い存在となっています。



与論町での子ども健康相談会ではAEDを使った心肺蘇生法の実技研修等も実施

アドバイスや病気の不安・疑問点などの解説や小児科医としての思いも掲載しています。

「多くの方々

の協力や支援があつてここまでくることができました。しかし、難しい病気を克服した子どもたちが成長し、社会生活を送ることを考えたとき、病気に対する誤解や偏見など多くの問題があると思います。社会復帰への支援や病気に対する正しい知識の普及と深い理解が必要だと感じています」と河野さん。

「子どもは、家庭だけでなく社会全体で育てるもの。みんなで健全な成長発達のサポートができる社会になってほしい」という熱い思いを胸に、NPO法人子ども医療ネットワークは今日も活動を続けています。



南日本新聞掲載50号を記念し「子ども救急箱」を作成、現在第2号を発刊

### 代表者からひとこと



かわのよしふみ  
理事長の河野嘉文さん

子どもは社会の財産、成長発達のサポートを社会全体で考えることが重要です。

共生・協働の地域社会づくりや  
NPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進課(県庁9階) TEL 099(286)2241  
◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内) TEL 099(221)6613  
関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。